

実施日：平成 28 年 10 月末～3 学期	
領 域：総合的学習の時間	
取組名：4 年 1 組の絆	
対 象：4 年	実施場所：教室・体育館
ア ねらい <ul style="list-style-type: none"> 劇の練習をする中で、自己表現力を磨いたり、連帯意識を育てたりする。 	
イ 指導内容（指導略案）や取組の概要 <ul style="list-style-type: none"> 配役を決める。（オーディション） セリフの言い方やジェスチャーを各自で考え、友だちと相互評価しながら練習を進めていく。 歌を歌う場面を取り入れ、音楽の時間にも練習する。 演劇会を開く機会を設け、全校生や保護者、地域の方々に観てもらおう。 	
ウ 連携先：	
エ 連携にむけての取組 <ul style="list-style-type: none"> 保護者や地域の方々に演劇会に来てもらえるよう、招待状を出す。 	
オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点（別紙 1 参照） <ul style="list-style-type: none"> 人前で大きな声で演技できるか。 役になりきれるか。 友だちと交流しながら試行錯誤しているか。 等 	
カ 評価の方法 <ul style="list-style-type: none"> 児童の観察 児童の発言 	
キ 成果 <ul style="list-style-type: none"> 劇を通して、互いに切磋琢磨し、励ましあったりアドバイスしたりする中で、より協調性が深まり、仲間との絆を築くことができた。 クラスの中でも、控え目でおとなしい児童が、台詞に抑揚をつけたり、役になりきったりすることで、自己表現力が高まり、新たな一面が見られた。 他学年や保護者、地域の方々を招いて劇の鑑賞会を行うことで、子どもたちの頑張りや、学校の取組を公開することができた。 キャリア教育の視点から、役柄を通して演じる仕事をする人々の職業観みたいなものを知ることができた。 	
ク 課題 <ul style="list-style-type: none"> クラスが一つの目標に向かっていく一方で、その雰囲気についていくことに困難を感じている児童もいた。劇の指導を進める上で、児童への励ましや、指導の仕方など、児童が意欲を持ち続けられるような工夫が必要である。 	